

令和2年度社会福祉法人ないえ福祉会 事業計画

事業方針

令和2年度から新たな職員体制でのスタートとなります。計画的に進んだ組織体制とは言えない状況となりますが、各事業所間での連携を図り、制度等への知識を深め前へ進んでいきたいと思ひます。

令和3年度には、3年に一度の報酬改定が行われます。各事業で報酬改定の情報収集や課題等を見直しを行い、安定した事業運営ができるよう準備を進めていきたいと思ひます。

職員の人材確保については、大きな課題となっています。3年連続で新卒者の応募はなく、地域の職場説明会等への参加を行いましたが無果はありませんでした。インターネットを活用した求人方法など新たな取り組みを考えていきたいと思ひます。また、働きやすい職場作りや処遇改善にも力を入れ、引き続き離職者を減らすよう取り組んでいきたいと思ひます。

各事業所の設備面では、本体施設の屋上防水やグループホームの設備に改修等が必要となっています。計画的に改修工事などを行い、事業所の機能維持に努めていきたいと思ひます。また、令和元年度に防災型自家発電装置を設置することができましたが、燃料の確保等の課題があり、十分な対策とは言えない状況にあります。利用者が安心して生活が送れるよう災害等への対策にも力を入れていきたいと思ひます。

中・長期計画

(1)入所事業

- ・本体施設屋上の防水工事
- ・入所施設の災害等への対策
- ・経過措置期間である一人部屋の改修とナースコールの設置に向けた調査、準備
- ・地域交流ホームの改修工事に向けた検討
- ・本体施設浄化槽のかさ上げ工事
- ・入所施設建て替えに向けた積立

(2)就労事業

- ・椎茸ハウス内の暗渠工事
- ・椎茸ビニールハウスの設備等の更新
- ・培養室のエアコン設備
- ・就労継続B型事業の2事業所への分離
- ・利用者の高齢化を踏まえた事業の検討

(3) 共同生活援助事業

- ・グループホームイハナのスプリンクラー設置
- ・グループホームアルク給湯器改修
- ・ききょう 屋根の修繕
- ・あじさい 建て替え新築工事に向けた準備、補助金の申請
- ・各ホームの災害等への対策
- ・日中サービス支援型共同生活援助事業の情報収集、調査

(4) 居宅介護事業

- ・サービス提供方法の調整や見直し
- ・共同生活援助事業との連携強化
- ・居宅介護事業の広報活動、意向調査等
- ・市町村に対しての移動支援費等の見直し要請

具体的事業

1. ハード面の事業について

建設後 24 年が経過する本体施設の改修工事をはじめ、各事業ごとに必要な修繕や改修等を行っていきます。また、昨年に引き続き災害等に強い施設づくりを目指し、利用者が安心して生活できるよう環境の整備を行っていきたいと思います。

- (1) 本体施設屋上防水改修工事
- (2) 本体施設発電設備の燃料確保
- (3) グループホームあじさいの土地購入
- (4) グループホームイハナのスプリンクラー設置
- (5) グループホームアルク給湯器改修
- (6) すまっしゅ椎茸ハウスの整備

2. ソフト面の事業について

人材確保については、年々厳しさを増しています。現在いる職員の処遇向上等を行い、働きやすい環境づくりを行っていきたいと思います。また、働き方改革に関連した法律への対応も含めた取り組みを行っていきたいと思います。

- ・職員の賃金改善のため処遇改善加算の取得
- ・適切な労働時間の管理と管理方法の効率化
- ・新卒者確保に向けて求人サイトへの契約検討等
- ・職員のスキルアップのための他事業所との職員交流

3. 日中活動系事業について

就労事業では、令和2年度も就労継続B型事業・就労移行事業の多機能として活動していきます。

就労継続B型事業では、二棟のうち一棟のハウス内暗渠工事は3年前に終えていますので、残りのハウス内暗渠工事と、劣化しているハウスのビニールの整備等を計画しています。また、平成31年度の利用者の平均工賃が13,434円でしたので、令和2年度は15,000円を目指して取り組みながら、利用者の年齢や特性に配慮し、安全に活動していきたいと思います。

就労移行事業には新たに6名の利用者が加わります。若い力を発揮し、就職につながるよう、職場開拓にも力を入れていきたいと思っています。

生活介護では令和元年度、退所者が1名、新規利用者1名を受け入れ現在40名の定員に対して47名の利用者となっています。日中活動では、高齢利用者に対しての体操や散歩等の健康活動を中心に行ってきました。利用者の高齢化と重たい障がいを持つ利用者など、年齢差や特性の違いも様々ありますが、無理なく継続できる散歩や自立課題の活用を行いながら、体力維持や精神安定に努めた支援を行っていききたいと思います。次年度についても引き続き、高齢利用者に対しての活動面での検討や見直しを行い、重たい障がいを持つ利用者への支援技術の向上に力を入れ、利用者のニーズに答えながら楽しく活動できるよう努めていききたいと思います。

4. 施設入所支援事業について

施設入所支援では、男性利用者が1名入所され、定員40名を満たしています。職員体制は昨年より利用者1.7人に対して職員1名の体制から利用者2名に対して1名の体制となり人材確保が難しくなっています。令和2年度は、強度行動障害支援者養成研修へできるだけ参加し、職員の支援技術の向上ができるようにしていきます。利用者への個別の支援等を報酬につなげられるよう職員への指導や支援の調整などを行っていききたいと思います。令和元年度は、災害時の対策として防災型自家発電装置の設置や利用者の高齢化に伴い浴槽内の手すり付き階段、廊下や玄関内の手すり、ヒートショック防止のため脱衣室にセラミックヒーターの設置、男女棟洗面所の改修工事などを行いました。2年度も利用者の高齢化に伴い、必要な物品の購入や施設内の改修工事などを計画的に行い、利用者が安心して過ごせるように環境を整えていききたいと思います。

5. 居宅系事業について

①共同生活援助事業

共同生活援助事業は、昨年度に新しい入居者4名を迎え、この春にも雨竜高等養護学校の卒業生1名を迎えます。今年度で退所される方が1名おり、4月からの空き状況は1室となる予定です。

令和2年度は、入居し10年を経過したホームから順に、建物のメンテナンスを進める計画です。ききょうは屋根の塗装、アルクは給湯設備の取り換え工事、スプリンクラーも残すところ一か所となったイハナへ設置する予定です。

また、唯一賃貸物件であるあじさいの建て替え計画をすすめており、より手厚い支援を必要とされる高齢の入居者や重い障がいをもつ入居者のためにも、夜勤者を配置し、安心して生活ができるよう設備を整える考えです。次年度は補助金の申請、再来年度着工と計画的に進めていきます。

夜間だけではなく、日中活動に参加することが難しくなってくる入居者のためにも、日中の支援について基盤を整備していく必要があります。慎重に人間関係を考慮したうえで、高齢の方も、活動的な若者達も互いに生活しやすく、充実した毎日が過ごせることを目指し、取り組んで参ります。

入居者の高齢化に伴い、通院同行支援も増えており、業務に追われることが多くなりましたが、支援者としてのやりがいや魅力を感じ、伝えながら、居宅介護事業との連携を含め、人員の確保等に努めていきます。

②短期入所事業

短期入所事業は、これまでと同様に通所利用者の方の定期的な利用のほか、地域の利用者等の受け入れを行ってきました。また、グループホームを利用していた方が精神的な問題等からグループホームでの生活が困難となり、一時的に短期入所事業を利用する事例などもありました。令和2年度についても利用者の状況により、稼働率などは変動していくと思われませんが、地域の大切な資源として事業を進めていきたいと思えます。

③居宅介護事業

居宅介護事業は、これまで赤字決算が続き理事会において経営改善に向けた小委員会を立ち上げ、事業の継続について検討されてきた課題の多い事業です。理事会で提案された「理事長の指針」に沿い、これまでの反省をもとにサービス提供の在り方や共同生活援助事業との連携、事業に対する利用者や保護者への理解促進等に努め、事業の継続が可能となるように取り組んでいきたいと思えます。